

私たちが“テロの標的”になる時。

南スーダン PKO の「かけつけ警護」で何が起きる。
国際救援活動の最前線からの報告。
瀬戸際の「日本・平和ブランド」。

3月29日、戦争法が施行されました。
70年間、日本国民が築いてきた「日本・平和ブランド」が崩れ落ちようとしています。
9月にも予定された南スーダン PKO の「かけつけ警護」は、7月の参院選のため安倍政権はとりあえず先送りしました。
戦争する国にするためには、憲法を踏みにじり、歴史を書き換え、国民を欺く。
繰り返される“アベノ詐術”に私たちは騙されません。安倍政権の独裁は許せません。
いまを生きる私たち、未来を生きる子どもたち、平和を望む世界の人々の為に、紛争の地で、人々の生きる権利に手を差し伸べ続ける谷山博史さんが語ります。

第8回 取手革新懇総会

特別講演

国際救援活動の最前線からの報告。
瀬戸際の「日本・平和ブランド」
JVC 日本国際ボランティアセンター代表理事
谷山博史

日時：6月11日(土)午後1時30分

場所：取手福祉会館小ホール

※講演の後の総会にも是非ご参加ください。
入場無料…どなたでもお聞きできます。

取手革新懇

■神原禮二 090-4527-7768



谷山博史 (たにやまひろし)

日本国際ボランティアセンター (JVC) 代表理事

1958年東京生まれ。中央大学大学院法律研究科博士課程前期修了。在学中からJVCにボランティアとして参加。1986年からJVCのスタッフとして、タイ・カンボジア国境の難民キャンプで活動。その後タイ、ラオス、カンボジアの駐在を経て、94年から8年間事務局長を務める。2002年からJVCアフガニスタン代表。2006年11月より現職。2015年より国際協力NGOセンター (JANIC) 理事長兼任。日本イラク医療協力ネットワーク (JIM-Net) 理事、イラク戦争の検証を求めるネットワーク呼びかけ人、戦争をさせない1000人委員会呼びかけ人、NGO非戦ネット発起人など多数のネットワークに関わる。著書(共著)に、『NGOの選択』、『NGOの源流』(めこん)、『福島と生きる』(新評論)、『『積極的平和主義』は紛争地に何をもたらすか?!』(編著、合同出版)など。